総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。
研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

１．研究課題名

扁桃腺摘出術における超音波ガイド下選択的舌咽神経ブロックの効果：後ろ向き研究

２．研究の対象患者

旭中央病院の症例で、以下の選択基準をすべて満たし、除外基準のいずれにも該当しない患者さん

・選択基準

1) 全身麻酔下に扁桃腺摘出術を受けた患者さん
2) 対象期間(2023年1月１日から2024年2月29日)で手術を受けた患者さん
3) 性別不問

・除外基準

1) 知的障害や認知症など意思疎通が困難であった患者さん
2) その他、研究責任(分担)者が研究対象者として不適当と判断した患者さん

３．研究の対象期間

2023年1月1日～2024年2月29日

４．研究の概要

現在、全身麻酔下手術後の疼痛コントロールは神経ブロックや硬謨外麻酔など、局所麻酔を用いることで麻薬の使用量を抑える傾向になっている。これにより、麻薬多量使用による術後合併症を減らしたり、より合併症の少ない鎮痛を行うことが可能となってきた。しかし、咽頭部手術においては今まで長期作用型の局所麻酔を用いた神経ブロックは一般的に行われておらず、術後鎮痛には非麻薬性鎮痛薬や麻薬がよく用いられてきた。

近年、咽頭部領域の超音波ガイド下選択的舌咽神経ブロックや上顎神経ブロックが考案され、注目されている。舌咽神経ブロックは咽頭部を支配する神経をブロックするため、咽頭部を対象とする手術であれば奏功する。現在、咽頭部領域における手術で選択的舌咽神経ブロックを行うことで、術後の疼痛コントロールに有効であることが示唆されている。扁桃腺摘出術後の疼痛に対して、選択的舌咽神経ブロックおよび上顎神経ブロックを行うことで、どの程度鎮痛効果があるかは不明である。神経ブロックによる効果を調べることは周術期の疼痛管理において重要な知見となる。

超音波ガイド下選択的舌咽神経ブロックおよび上顎神経ブロックが術後鎮痛としての有効性を調査することは、周術期疼痛管理に重要な知見となる。

５．研究実施予定期間

2024年3月8日～2024年3月31日

６．研究に用いる試料・情報の種類

研究対象者背景:生年月日、年齢、性別、身長、体重、既往歴、合併症、入退院日、手術名･手術日、診断名、麻酔時間、麻酔導入時における鎮静薬･鎮痛剤の種類及び投与量、神経ブロックの施行有無及び種類、麻酔導入時の不快度、声帯の開存の有無

７．研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究結果を研究対象者（又は代諾者）個々に開示することはありません。

８．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

（連絡先）地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・研究責任者： 麻酔科　小島佑貴

・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111㈹